

第20回五霞町青少年の主張大会

第20回五霞町青少年の主張大会が12月15日、五霞町中央公民館講堂において盛大に開催されました。

《受賞者名》 (敬称略)

○五霞町青少年問題協議会長賞
五霞中学校 3年 中川 琴音

○五霞町議会議長賞
五霞東小 5年 栗原 隼太

○五霞町教育委員会教育長賞
五霞中学校 2年 栗原 二千翔

○青少年育成五霞町民会議会長賞
五霞中学校 1年 隈元 由太

○五霞町青少年相談員協議会長賞
五霞中学校 3年 田辺 諒一

○優秀賞

五霞西小学校 5年 荒川 雄作

五霞東小学校 6年 中村 友音

五霞西小学校 6年 須釜 渉

五霞中学校 1年 篠崎 那月

五霞中学校 2年 山田 和輝



「東京と五霞」五十キロを結びボランティア
五霞中学校3年 中川 琴音

皆さんは、五霞町に「東京から50キロ」という標識があるのをご存知ですか？幼い頃、母や祖母と一緒によく遊んだ堤防で、その標識を見た私にとって「東京はとても遠い場所」という印象が強く「歩いて東京まで行くなんて無理！」と思っていました。

ところが、そんな不可能だと思っていたことを、実現している人たちがいます。それは「柴又100キロマラソン」に挑む

ランナーたちです。江戸川から利根川の堤防を走り、ちょうど50キロ地点となる五霞町を折り返して、再び柴又に戻ると言うマラソン大会です。50キロを歩くことさえ無理だと思っていた私にとって「まさか往復100キロを走るなんて！」という驚きを感じるとともに「実際にこの目で見てみたい！」と強く興味をひかれる大会でした。そして、それは思わぬ形で実現したので、それが私にとっての小さくて大きな挑戦となりました。

実は、私はとても人見知りをしてしまいます。中学1年生の頃は、初めての人と話すことはもちろん、クラスメイトと自然に話したり、本当の自分を出すということが全くできませんでした。しかし、去年の夏休みにリーダーズシップ・トレーニング・センターに参加して以来、少しずつ自分からクラスメイトに話しかけたり、人前でも大きな声で自然に笑ったりできるようになってきました。そこで、この「柴又100キロマラソン」のボランティアに参加してみようと思ったのです。

「初めて会うランナーの方々」に笑顔で声を掛けることができらるだろうか？そんな不安を抱いて、緊張しながら迎えた当日、その不安や緊張を取り除いてく

れたのは、他ならぬランナーの皆さんでした。既に50キロを走り、疲れているはずの皆さんは、私が緊張した声で「頑張ってください」と声を掛けると、笑顔で「ありがとう」と返してくれます。五霞町は給水所の中で唯一野菜を提供しているので、特産のトマトやキュウリも「おいしいね」と笑顔で食べてもらえました。そのキラキラと眩しい笑顔につられて、私も徐々に自然な笑顔で話しかけることができました。できるようになっていました。さらに100キロ完走できなかったランナーの方に「ボランティアのおかげでも良い大会だった。完走はできなかったけれど良い思い出になったよ」と言っていました。私はこれまでボランティアがランナーを支えるものだとばかり思っていました、ひとつの間にかランナーの皆さんの感謝の言葉や笑顔に支えられている自分があることに気が付きました。今回のボランティアを通して、私もいつか相手に元氣と勇気を与えられる人間になれるよう、努力したいと思えました。次はぜひ、地震などの被災地でのボランティアにも挑戦したいです。

「初めて会うランナーの方々」に笑顔で声を掛けることができらるだろうか？そんな不安を抱いて、緊張しながら迎えた当日、その不安や緊張を取り除いてく